Clarion

Clarion Report 2008

会社概況 ● CSRレポート

クラリオン株式会社

Clarion

本社事務所　〒330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心7-2　TEL:(048) 601-3700
本　　社　〒112-8608 東京都文京区白山5-35-2　TEL:(03) 3815-1121

http://www.clarion.com/

PRINTED WITH SOY INK
Naturalus Printing Naturally

クラリオンの前進

クラリオンは2010年に創立70周年という大きな節目を迎えます。その節目に向けて取り組んできたのが、クラリオンの新企業ビジョン「Vision-70」です。クラリオングループの英知を結集し、継続して世界中に貢献することができる企業へと飛躍し、真に世の中から必要とされる企業になるべく積極果敢に進んでまいりました。そして現在、「Vision-70」はゴールである2010年を目前に、目標達成に向けて着々と進んでいます。

また同時に、クラリオンが将来「業界一、日本一、世界一」になるべく、B.N.1（Be Number One）という活動も並行して展開しています。2008年度はこの基礎を完成させ、来年度には確かな実績として結実させ始める予定です。したがって、本年は極めて重要な時期であると考えています。

次代の感動を創造する、真のオンリーワン企業へ。

クラリオンのブランドイメージ戦略

クラリオンの社名を、もっと多くの方に知っていただくこと。これは大事なことであり、以前から力を入れてまいりました。そして今回は、さらに一歩進んで「1人でも多くのクラリオンのファンをつくる」というブランドイメージ戦略を打ち出しました。すなわち「100人が知っていることより、10人のコアなファンがいる」会社であるべきだという考えです。これによって、結果的にクラリオンを知る人も増えることを確信しています。そのためにクラリオンは、よりこだわりのある商品を提供していくとともに、お客様により大きな満足と喜びを提供することによって、この戦略を達成していきます。

また、将来の成長戦略を描く上でグローバル化は必然のことです。そのためクラリオンではマーケットを世界中に広げていくなかで、その地域や文化にマッチした、今までにない商品の企画を積極的に提供していきます。さらにマーケットの拡大と並行して、会社と従業員一人ひとりが、グローバル化への対応に努めていきます。その努力こそが、各国のニーズに対応した商品づくりに不可欠であり、クラリオンのファンを増やすための重要な要素であると考えています。

クラリオンの環境への取り組み

地球温暖化の影響は世界各地に現れ、環境の悪化が想像以上に速く進んでいます。これは、私たち人類に突きつけられた緊急の課題といえます。クラリオンは、この環境問題を経営課題として位置づけ、商品開発など企業活動全般にわたり、環境経営を実践しています。当社が目指す「真に世の中から必要とされる企業」になるためには、こうした環境への配慮や積極的な取り組みは当然の使命であると考えています。

こうしたなか、自動車業界にも大きな変化が起きています。新興国で高まる車の需要において、超小型車が台頭しています。さらにはハイブリッドカー、電気自動車など、新しい動力による車の時代も始まっており、IT技術を駆使した省エネ化も加速しています。クラリオンが担う車載情報通信機器の役割もますます大きくなっていくでしょう。クラリオンではこのような変化を将来的な成長の潮流として捉え、このチャンスを土台にさらなる飛躍を目指します。

クラリオンの提供する商品

クラリオンの商品ドメインは「車載情報通信機器」です。当社が10年前から提唱してきたIVCS構想（In-Vehicle Computing System）の時代がいよいよ到来しました。IVCS構想とは、車室内でいろいろな情報の授受を行うことによって、ユーザーの方々に「快適・利便性」、「安心・安全」、「環境・効率」を提供する構想です。クラリオンは、本格化するテレマティクス時代において、最高の商品をお客様に提供し続けたいと考えます。

まず、クラリオンが注力するのがソフト面の充実です。これからは情報などソフト面の需要が急激に高まり、ハードとソフトが車の両輪となることが求められます。クラリオンは、従来の得意分野であるハードに加えて、コンテンツや各種情報などのソフトの分野でお客様に新たな価値を提供し、その量質ともに飛躍的に向上させていきます。

そしてもう一つは「H.M.I.」の徹底的な追求です。マッシュアップも含めた操作面で、車を知り尽くしたクラリオンらしさを体現します。このような差別化により商品価値を高め、より多くのクラリオンのファンを獲得していきたいと考えています。

ステークホルダーの皆様へ

お客様へ　お客様のニーズをいち早く察知し、先進的な機能を盛り込んだユニークな商品を提供していきます。また、お客様に大きな満足と安心と喜びを感じていただけるような商品づくりに努力し続けます。

株主の皆様へ　クラリオンは将来にわたり、たゆみない成長を目指し続けます。日立製作所とのアライアンスや、さいたま新都心に建設した技術センターなど、将来の大きな成長を確実とするための土台も整えました。これからもチャレンジブルな目標を掲げ、勇往邁進いたします。

取引先の皆様へ　クラリオンはグループ一丸となって、新たな領域に足を踏み出そうとしています。市場環境の変化、グローバリゼーション、テクノロジーの進歩など、私たちを取り巻く状況が加速的に変化するなか、いち早く将来の方向性を見いだし、市場の変化よりも早く動くことが大切だと考えています。従って、クラリオンでは今後も状況をいち早く見て、考え、迅速に行動していく所存であり、さらなる Clarion H.M.I.（Human Mobile Music Media Interface）、人と音楽と情報のよりよきつながりを追求してまいります。

クラリオン株式会社
取締役社長　泉 龍彦

企業理念

基本理念

クラリオンは、音と情報と人間のより良きつながりを追求し、価値ある商品を生みだすことにより、豊かな社会づくりに寄与します。

経営姿勢

- ●優れた製品とサービスを提供し、お客様に満足と喜びをおくる。
- ●独自の発想と技術により、新たな価値を創造する。
- ●個々の人間性と能力を尊重し、自由闊達な風土を作る。
- ●人と社会と自然の調和を図り環境維持につとめる。
- ●地域社会の発展のために、企業市民としての責任を全うする。
- ●適正な利潤の確保により、継続的な成長を果たす。

行動指針

私たちは、
- ●常に勇気を持って自らを革新し、高い目標に“挑戦”します。
- ●常に新しい価値を生みだす夢と感動を“創造”します。
- ●常に人々の信頼に応えるために、“誠意”を尽くします。

企業ビジョン

＜ Vision-70 ＞
音と情報を楽しむモバイル・インフォエンタテイメント環境において「新たな安心」、「新たな快適」にこだわった商品をつくりあげ、お客さまにわくわくする感動と満足をお届けします。

Clarion
Human Mobile Music Media Interface
Clarion 1958

「Clarion」ロゴをグラデーションでデザインすることにより、シャープな現代性を象徴。カラーは、企業の透明性や信頼感を表現した「Clarionアズーロ」を採用。アズーロはイタリア語で“青”を意味します。

COMPANY PROFILE
会 社 概 況

「クラリオンは、音と情報と人間のより良きつながりを追求し、
価値ある商品を生み出すことにより、豊かな社会作りに寄与します」
（『基本理念』）

CONTENTS

■ 会社概況
■ CSRレポート
- CSRマネジメント … P. 19
- 社会とのかかわり … P. 25
- 環境とのかかわり … P. 35

Clarion 概要

会社概要（2008年3月31日現在）

商　号	クラリオン株式会社 Clarion Co., Ltd.
本社事務所・技術センター	〒330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心 7-2 電話 048（601）3700
本　社	〒112-8608 東京都文京区白山 5-35-2 電話 03（3815）1121
設立年月日	1940年12月18日
資 本 金	26,100百万円
発行済株式数	282,744千株
売 上 高	連結 246,806百万円（2008年3月期） 単独 139,630百万円（2008年3月期）
従業員数	連結 11,186名 単独 1,081名（※出向者は除く）
主要製品	カーナビゲーション、カーオーディオ、 車載用カメラ、映像機器、バス機器、通信機器

役　員（2008年6月25日現在）

取締役社長	泉 龍彦
取締役	若森 豊
取締役	吉峰 徹郎
取締役	和田 泰彦
取締役	沼田 修
取締役	会田 豊治
取締役	塚田 實
取締役	本田 恭彦
取締役	篠崎 雅継
常勤監査役	川原 正幸
常勤監査役	滝沢 克俊
監査役	笹井 保大
監査役	唐澤 俊二郎
監査役	湯浅 裕司

＊取締役 塚田 實、本田恭彦及び篠崎雅継の各氏は、社外取締役であります。
＊監査役 笹井保大、唐沢俊二郎及び湯浅裕司の各氏は、社外監査役であります。

主要取引金融機関

りそな銀行
みずほコーポレート銀行
三井住友銀行
三菱東京 UFJ 銀行

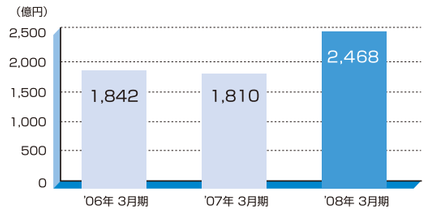
加盟団体

日本自動車車体工業会
日本機械輸出組合

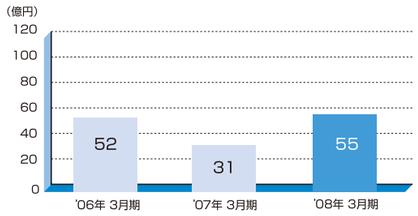
財務ハイライト

財務ハイライト（連結）

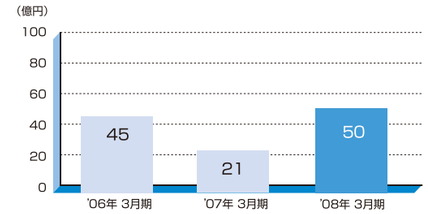
■ 連結売上高



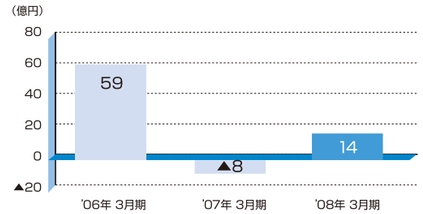
■ 連結営業利益



■ 連結経常利益

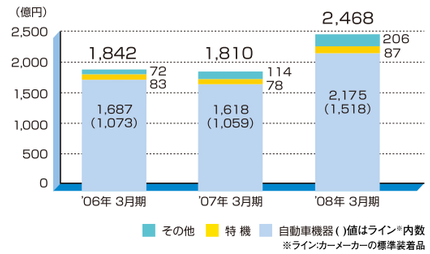


■ 当期純利益

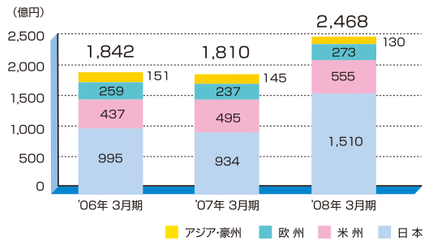


売上高内訳

■ 商品事業別



■ 地域別



世界中のニーズを網羅する
クラリオンのグローバルネットワーク。

クラリオンでは商品ドメインである車載情報通信機器を中心に、世界のマーケットをカバーする高度なグローバルネットワークを展開。さまざまな国や地域のニーズを的確に反映した高品質の製品・サービスにより、世界中のお客様と強固なリレーションシップを築いています。また、あらゆる地域において最新の商品・最高のサービスをタイムリーに提供するべく、常に顧客対応力や生産性の向上など現地体制の強化を推進。こうした継続的・積極的なグローバル戦略を背景に、「Clarion」ブランドはいまや世界のマーケットへ確実に浸透しています。

さらに今後は車載というフィールドを超え、世界中の社会インフラや文化、ライフスタイルまでも包含した新時代のモバイルネットワークの創出を目指していきます。

クラリオン本社事務所・技術センター

主要拠点・関連社会 (2008年4月1日)

<国 内>
クラリオン 株式会社 (CT)
クラリオン販売 株式会社 (CLH)
クラリオン製造プロテック 株式会社 (CPT)
クラリオンサービス 株式会社
クラリオンアソシエ 株式会社
クラリオンモバイルコム 株式会社 (CMC)
株式会社ザナヴィ・インフォマティクス (XIC)

<アジア／オセアニア エリア>
Clarion (H.K.) Industries Co., Ltd. (CHI) (DDCE)
Dongguan Clarion Orient Electronics Co., Ltd. (DCOE)
Xiamen Clarion Electrical Enterprise Co., Ltd. (CXEE)
Clarion (Malaysia) Sdn., Bhd. (CM)
Crystal Precision (Malaysia) Sdn., Bhd. (CPM)
SIAM CM Electronics Co., Ltd. (SCE)
Clarion Manufacturing Corporation of the Philippines (CMCP)
Clarion (Taiwan) Manufacturing Co., Ltd. (CTC)
Clarion Australia Pty. Ltd. (CAP)

<アメリカ エリア>
Clarion Corporation of America (CCA)
Zandiant Technologies, Inc. (ZTI)
Clarion Canada Inc. (CCI)
Electronica Clarion, S.A. de C.V. (ELECLA)
Ultra Industrial S.A de C.V. (ULTRA)
Clarion do Brasil Ltda. (CBL)

<ヨーロッパ エリア>
Clarion Europa GmbH (CED)
Clarion (G.B.) Ltd. (CGB)
Clarion Europe S.A.S. (CEF)
Clarion Spain S.A. (CSP)
Clarion Hungary Electronics Kft. (CHE)

- 販売会社
- 生産会社
- 開発会社
- クラリオン本社拠点
- 関係会社
- 販売代理店

車載分野に新風を吹き込む“未来思想”のプロダクト。

クラリオンは世界に誇る車載機器専業メーカーとして、変わりゆく時代のなかでフロントランナーとして走り続けてきました。そして、世界中の情報がネットワークでつながる現代において、クラリオンではクルマに新たな感動と満足を生み出すClarion H.M.I. 思想のもと、あらゆる音楽や情報がシームレスにつながる次世代の車室空間を目指しています。さらにはWebコンテンツとカーナビゲーションシステムとの連携など、クルマの持つ将来的な可能性をも視野に入れた製品開発により、車載分野をリードしています。常に時代の一歩先を見据え、クルマを知り尽くしたクラリオンならではの、車載機器に求められる理想の具現化。それは今後も絶え間なく進歩し続けていきます。

Clarion

Mobile
Human Music Interface
Media
Clarion HMI

■ 車載情報通信機器

テレマティクス時代の到来に早くから着目していたクラリオンでは、Clarion H.M.I. 思想に基づき「あらゆる楽しみとつながる」製品開発を行っています。主力商品であるカーナビゲーションシステムにおいては、地上デジタルTV放送への対応やBluetooth®によるワイヤレス通信、Webコンテンツとの情報共有など、ソフト面における多彩かつシームレスな連携を実現。これまで車室空間の中で完結していたカーナビゲーションの世界に、新たな感動と楽しさを提供しています。

■ 車載音響機器

音楽にとって苛酷な環境である車室空間において、クラリオンでは長年にわたり独自の音響技術の研究・開発を積み重ねてきました。いつの時代も貫いてきたのは“いい音”への飽くなきこだわり。その揺るぎない信念のもとで生み出されたオーディオ製品は、国内のみならず、世界中で高い評価を受けています。さらに、iPodをはじめとする多彩なデジタル機器との連携やBluetooth®のワイヤレス通信など、好きな音楽といつでもつながるシームレス環境を次々に実現しています。

■ 業務用車載機器

クラリオンではすでに、CCDカメラを用いた車両安全確認システムで確かな実績を誇り、ナビゲーションシステムとの連携も実現しています。また、事故時の映像記録を確実に保存する「ドライブレコーダー」、車間距離を保ちながら自動運行できるIMTSなど、安心・安全な社会の実現に貢献する数々の機器・技術を開発。さらに、圧倒的な耐久性とパフォーマンスを誇る業務用ナビゲーションシステム「Solid Navi」など、クラリオン製品はさまざまな分野へ活躍の場を広げています。

自動車メーカーとの連携は確かな信頼性と技術力の証明

■ OEM主要お取引先

※ iPodは、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。※ Bluetooth®は米国 Bluetooth SIG,Inc.の登録商標です。

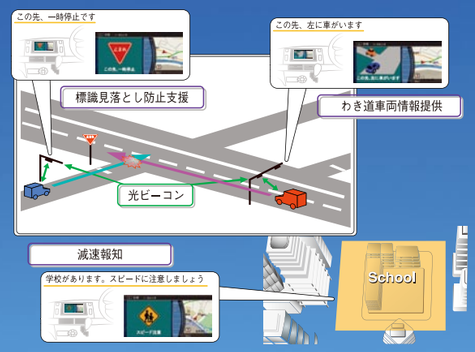
クルマの未来を切り拓く、技術開発への飽くなきこだわり。

クラリオンでは、長年にわたり蓄積された卓越した技術力によって、車載機器専業メーカーとして確固たる信頼を築き上げてきました。さらに現在においても、音楽や情報とクルマとのより良きつながりを創るClarion H.M.I. 思想の実現へ向け、技術者達の歩みは決して止まることはありません。より高機能高性能な車載機器の開発はもとより、ユーザーの嗜好やライフスタイルまでも踏まえた次世代シームレス環境の創造、未来の渋滞状況や交通事故などをシミュレートし安全なドライブを守るITS技術など、クルマの将来を見据えた技術開発に熱意を持って取り組み続けています。どこまでも妥協を許さない、その飽くなきこだわりこそが、お客様に期待以上のクオリティをご提供する源となっています。

人・道・クルマを一体化する先進のITS技術

クラリオンは、車両システムとの統合制御による安全・快適・環境保全や、社会インフラと連携した車載情報通信サービスの実現を目指したITS技術開発に積極的に取り組んでいます。その代表的な活動が、日産自動車が推進する“SKYプロジェクト”実証実験への協力です。SKYプロジェクトとは、道路上にある通信設備等のインフラと車との連携を図り、自車周辺の状況や交通環境をカーナビによりドライバーに通知し、交通事故の低減、渋滞緩和を目指した実証実験です。2006年10月から神奈川県で実施され効果が検証されています。出合い頭の事故低減を目的とした情報提供システム、速度超過時情報提供システム、プローブ情報を活用した動的経路誘導システムなどにおいて、クラリオングループが提供した車載情報端末が大きな役割を果たしています。

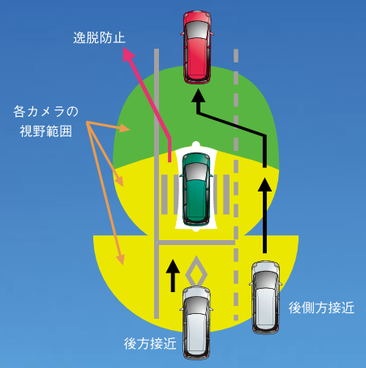
＜安全性向上のための機能＞



全視野型の次世代車載カメラシステム

クラリオンでは、複数のカメラ映像の組み合せによる視界確保をすでに商品化しています。次の一歩として、あらゆる方向からの接近する物体を全周囲モニターに表示する商品開発に取り組んでいます。これは、2005年から本格的に取り組みを始めた画像認識技術に、当社のコア技術である画像処理技術や超広角カメラを加えてシステム化するものです。このシステムにより、狭隘路における通り抜け運転時の安全確保や、駐車スペースから出る時の接触事故防止などを実現します。さらに、クルマの動く方向を示す予想進路線表示と合わせ、低速走行における総合的な運転支援装置の実現を目指します。また同じ技術を、後側方から近づいてくる追越車などとの接触防止、走行車線からの逸脱防止などに応用することも可能であり、ITSへ一歩踏み出したシステムの具現化に貢献していきます。

＜通常走行時の運転支援＞
接近車輌の検知イメージ



＜複数のカメラによる視界確保＞
2007年のOEM納入システム

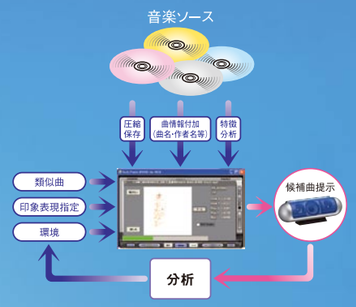
ビジネスを加速させる業務用テレマティクス

自動車などの移動体に通信システムを組み合わせて、さまざまな情報サービスを提供する「テレマティクス」。2008年3月、クラリオンは業務用としての使用に最適なナビゲーションシステム「Solid Navi」を開発し市場に導入しています。タフな振動にも耐えうる可動部のない部品構成、また外部とのデータ通信が可能なインターフェースを備えるなど、これまでにないナビゲーションが実現しました。今後も車載プラットホームとの連携、機能拡張を進めながら理想とするテレマティクスの実現に向け開発を進めます。

“原音再生”にこだわり抜いたオーディオ技術

車室内を理想的なオーディオルームに近づけるため、クラリオンはさまざまな音響技術の開発を進めています。音量設定の異なる音源に対する自動音量補正技術、圧縮オーディオの再生音質を改善する音質補完技術、臨場感を高めるサラウンド技術、搭乗者の位置での定位・音質・臨場感を向上させる音場補正技術、走行騒音や走行速度に応じて再生音量を自動制御する技術、走行騒音の能動消音技術、個人の聴覚特性を補正する技術などを現在開発中です。また、ハードディスクに蓄積する音楽の特徴を分析して、聴きたい音楽を印象で検索できる楽曲検索技術が、製品化されます。

＜楽曲検索技術＞



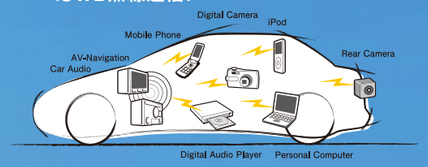
高画質地上デジタルTV放送への対応技術

放送のデジタル化は世界的な流れであり、日本では 2011年7月24日をもってテレビの完全デジタル化が予定されています。車載についてもデジタルTVの普及が進んでいますが、その受信に特有の要素技術としては、走行中に刻々と変わる電波状況への対応（フェージング対策）や受信エリアの拡大（弱電界対策）のためのダイバーシティアンテナ受信技術（2系統若しくは4系統アンテナの合成ダイバー）、高速移動中の受信を可能とする OFDM復調の信号処理技術の進化（ドップラーシフト対策）などがあります。当社は、12セグの受信エリアの不足を補うための受信補完技術として、2006年にアナログとデジタル（12セグ）の自動切換えタイプの受信機、2007年は、12セグ／ワンセグ自動切換えタイプの受信機で、さらに従来の2系統に加え4系統アンテナの合成ダイバーシティ受信技術を採用するなど受信性能向上を図っています。また、小型化、低消費電力化にも取り組み、AVナビゲーションへの内蔵タイプのうち、ワンセグ専用受信については2007年から、12セグ／ワンセグ自動切換え型については2008年から製品化しています。

安全性・利便性を飛躍的に高める無線通信技術

自動車内においては、ラジオやテレビ放送などの情報を一方的に受けるのではなく、必要な情報を必要な時に取得したり発信したりすることで、安全性やエンターテイメント性の向上が期待できます。また、車両に搭載されているカーナビ、カーオーディオ、リアカメラ、さらに車内に持ち込まれる携帯電話、携帯音楽プレーヤといった機器を無線接続する技術により利便性の向上やケーブルレスによる車両の軽量化を図ることができます。これらを実現する手段として、携帯電話網の活用、WiFi、WiMAX、Bluetooth®、UWBといった技術開発に取り組んでいます。

＜UWB無線通信＞



Mobile Human Music Interface Media
Clarion HMI

※ iPod は米国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。
※ Bluetooth® は米国 Bluetooth SIG, Inc. の登録商標です。

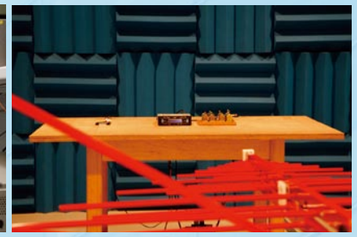
変わりゆく時代に揺るぎない信頼を築く、妥協なき品質の追求。

熱帯から極寒地、砂漠地域から湿度100%の多雨地域まで、車載機器は、世界のさまざまな気候や環境で安定した性能を発揮しなければなりません。また、ここ数年、自動車業界の世界的な再編によって、品質・コストの面でも、市場からさらに厳しい要求を迫られています。クラリオンでは、自社市販製品はもちろん、OEM市場においても、常にお客様のベストパートナーとして確かな品質を提供し続けるために、厳しい品質評価体制づくりに取り組み続けています。CADシステムによる精密なシミュレーション設計、試作評価、設計審査、試作品の品質試験など、Clarionブランドを満たす基準に達するまで、今日も想像を超える過酷なテストと妥協なき品質評価が繰り返され、商品はお客様の手元へと届けられるのです。

▲3次元CADシステム

▼自動測定室

▼電波暗室



▼音場解析実験

▼ラトルノイズ評価装置

◀シールドルーム

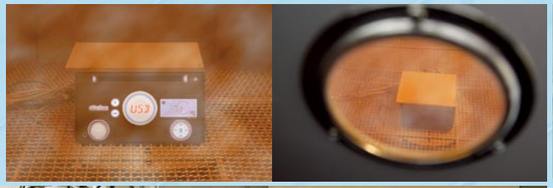
◀試聴室

▲カーシールド室

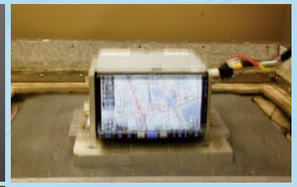
世界市場に認められる、新たな品質管理体制の確立。

クラリオンでは、製品の動作確認用の検査機器のプログラミングをはじめ、凝縮した回路や小型化した部品の実装状態を調べるため、高精細カメラやX線機器を積極的に導入。生産ラインでは、国内から海外まで統一されたチェックオペレーションが採用され、世界のどのクラリオン工場でも同様の品質が保たれる体制が整備されています。また、世界の市場に対応するため、ISO9001を母体とした自動車業界固有の品質システムである国際規格 ISO/TS16949を、すべてのクラリオングループ生産会社が認証を取得しています。
そのほか、取引先から自社までの一貫した品質管理体制や、グローバルに対応するサプライチェーンの整備など、「お客様満足と信頼の確保」を目指して品質保証体制の向上を図っています。

▼塵埃試験機



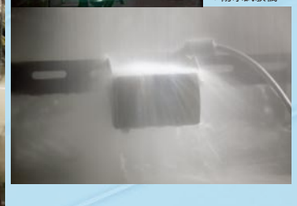
▼複合試験機（温度＋振動）



▼落下衝撃試験機

▲自動繰り返し耐久試験機

▼防水試験機



▲サーマルショック試験機

2007年 ホンダアクセスから「優良感謝賞・開発部門」を受賞
2007年モデルの開発体制と、積極的な新機能・新仕様の提案、各部門の協力活動などを評価、1997年以来10年連続の受賞

SIA（Subaru of Indiana Automotive, Inc.）から「スーペリア・アワード2007（品質部門、納入部門）」を受賞
SIA社が定める品質基準および納入実績を高い水準で達成

メキシコホンダ（Honda de Mexico, SA de C.V.）から「サプライヤー・コンファレンス・アワード2007」を受賞
過去1年間の総合活動（品質、サービス、技術、価格）を評価

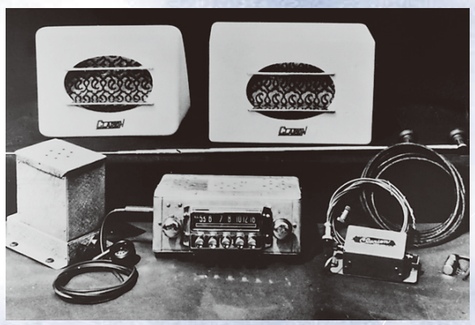
2007年度 上海GMからQCD総合評価を受賞
上海GMからクラリオン中国（DCOE）が納期、迅速な対応、価格において良好なクオリティ・パフォーマンスを発揮したことを評価され受賞

2007年 ダイハツから「商品開発優秀賞」を受賞
2006年モデル200mmワイドナビを開発し、ダイハツのメインモデルとして（1機種で）2万台以上を販売したことを評価され受賞

車載分野のフロントランナーから新時代の挑戦者へ、次の未来を描き続ける。

クラリオンは自動車産業の歴史とともに歩んできたといっても過言ではありません。日本初のカーラジオ、そして、日本初のカーステレオの発売など、車載機器の黎明期より業界のフロントランナーとして常に時代をリードし続けてきました。その企業スタンスは、ドライバーのニーズをしっかりと受け止めて確かな技術で応えること、さらに、豊かな創造力で常にユニークな製品を提案すること。カーラジオからカーAV、そしてカーナビへと時代が変わっても、これまで生み出してきた知的財産と企業理念を融合させ、クルマを中心とした移動空間すべてにおいて「音楽と情報のインターフェース」を目指して、「Clarion H.M.I.」を追求してまいります。

1951 日本初
クラリオン初の純正ラジオ
日野ルノー「ル・パリジャン」発売



1948 日本初
カーラジオ・バス用拡声装置を
開発、発売

1996
1DIN タイプ CD/DSP コントロール、
TV/AM/FM チューナー付
5 型 LCD アンプ「VRX8250」発売

1995
市販初の 2DIN CD/カセット一体機
「ADX8155」発売

1996
高性能・高音質 CD センターユニット
「DRX9255」発売

1963 日本初
カーステレオを開発、翌年発売

1968 日本初
カセットカーステレオを発売

1998 世界初
米マイクロソフト社と車載コンピュータ
「AutoPC」を共同開発。
世界で初めて「Clarion AutoPC™」を米国で発売

1999
1DIN タイプ CD/MD/AV/DSP/EQ/
TEL-LINK コントロール
AM/FM チューナー付 CD デッキアンプ
「DRX8575z」発売

2002 日本初
車載 PC「AutoPC CADIAS™」発売。
OS に Windows CE for Automotive 採用、
通信方式ナビ「Access Navi」採用

1992
ナビゲーション
（マップナレーションシステム）発売

2005 業界初
iPod フルコントロール機能搭載
1DIN AV センター ユニット
「VRX755VD」発売

1993 日本初
ハイブリッドナビゲーションシステム
「NAX-700」を発売

2008
地上デジタル TV チューナー・
Bluetooth® 内蔵ワイド 7 型 VGA 2DIN /
DVD/HDD AV-Navi システム
「CRASVIA（NX808）」発売

沿革

1940
1940 年 12 月／東京都文京区白山前町 21 番地に白山無線電機株式会社を設立、電池式家庭用ラジオの製造を開始。／資本金 18 万円
1943 年 11 月／瀧澤無線電機工業 (株) を合併、帝国電波 (株) と改称。
1951 年 2 月／日本初のカーラジオを開発し発売。
1958 年 6 月／カーラジオのアメリカ向け輸出に成功、今日のカーオーディオ輸出の基盤を築く。
1959 年 5 月／カーラジオが日産自動車より純正部品指定を受ける。

1960
1962 年 8 月／東京証券取引所市場第二部に株式上場。
1963 年 10 月／日本初のカーステレオを開発、翌年 8 月販売を開始。
1967 年 9 月／埼玉県戸田市に埼玉事業所を新設。
1968 年 3 月／日本初のカセットカーステレオを発売。
1969 年 8 月／大阪証券取引所市場第二部に株式上場。

1970
1970 年 2 月／東京証券取引所・大阪証券取引所市場第二部より第一部に上場指定替。
1970 年 4 月／東京都渋谷区道玄坂に本社事務所を設置。
1970 年 12 月／商号をクラリオン (株) に改称。
1970 年 12 月／マレーシアに合弁で初の海外工場 (CM) 設立。
1975 年 6 月／クラリオンガールをスタートさせる。アグネスラムが初代グランプリに。
1976 年 8 月／業務用カラオケ "カラオケ 8" 及びカセット編集デッキ "ダビング X" を発売。
1978 年 10 月／福島県郡山市に東北事業所を設置。

1980
1980 年 11 月／東京都渋谷区渋谷に本社事務所を移転。
1983 年 7 月／フランス工場 (CF) 設立。
1983 年 11 月／群馬県邑楽郡に群馬事業所設立。／メキシコに生産会社を設立。
1987 年 7 月／カー CD CD5000 発売。
1989 年 10 月／フィリピンに生産会社を設立。

1990
1992 年 2 月／日本初の音声誘導式ナビゲーションシステム NAC-200 発売。
1993 年 4 月／ SS 無線モデム技術基準適合証明を国内ではじめて取得。同時にモデムの発売。
1995 年 1 月／香港管理会社 (COC) 設立。
1995 年 3 月／クラリオン全事業所で ISO 9001 取得。
1995 年 4 月／中国に生産会社 (DCOE) 設立。
1996 年 5 月／ VICS 対応カーナビ発売。
1997 年 4 月／浜松営業所設立。
1997 年 10 月／ハンガリーに生産会社を設立。
1998 年 1 月／米マイクロソフト社と車載用パソコン Clarion AutoPC を共同開発。
1998 年 12 月／世界ではじめて Clarion AutoPC を、アメリカにて販売開始。
1999 年 8 月／ ETC（自動料金収受システム）を日立製作所と共同開発。
1999 年 12 月／仏シトロエンに「オート PC」OEM 供給開始。

2000
2000 年 3 月／クラリオン販売 (株) 設立。
2000 年 4 月／ ISO 14001 国内 5 事業所にて取得。
2000 年 12 月／クラリオン、日立製作所、ザナヴィ・インフォマティクスの 3 社で合弁会社の (株)HCX 社を設立。

01
2001 年 5 月／東京都文京区白山に本社事務所を移転。
2001 年 8 月／クラリオンスカラーシップ MEDAMA をスタートさせる。
2001 年 10 月／有料道路自動料金収受システム (ETC) 用の車載器を発売。
2001 年 11 月／東京モーターショーに AutoPC CADIAS（カディアス）を出展。

02
2002 年 3 月／北米向け衛星ラジオ受信機を発売。
2002 年 9 月／埼玉県戸田市に本社事務所を移転。
2002 年 10 月／クラリオン東北製造にクラリオン自機生産部、クラリオンロジスティクスを統合し、社名をクラリオン・エム・アンド・エル（株）に変更。
2002 年 12 月／日本初の車載コンピュータ『AutoPC CADIAS』発売。

03
2003 年 2 月／世界初、後方確認用俯瞰カメラシステム（真上から見た映像を表示）を日産自動車向けに納入。
2003 年 6 月／ HDD(ハードディスクドライブ）搭載 AV ナビゲーションシステムを発売。
2003 年 8 月／中国・上海GM社 へCDカーオーディオを納入開始。
2003 年 10 月／日産情報サービス「カーウイングス」に対応した、HDD 搭載 AV ナビゲーションを発売。

04
2004 年 2 月／業務用車両用として世界初の Linux と Java™ J2ME CDC を搭載した車載用情報端末を発売。
2004 年 6 月／市販 2DIN サイズとして業界初となる 7 インチモニターおよびHDD 搭載 AV ナビゲーションを発売。
2004 年 7 月／業界初、路線バス向け停留所名表示器用FM文字多重放送チューナーを発売。

05
2005 年 1 月／業界初、モニター画面上の仮想 iPod で、iPod 本体操作可能なAVセンターユニットを北米で発売。
2005 年 3 月／ボルシェ・ジャパン全車種へ AV ナビゲーションを展開。
2005 年 5 月／業界初、国内向けに iPod 対応 AV 一体型 HDD ナビゲーションを発売。

06
2006 年 6 月／中国、北米の市販市場にカーナビゲーションを初投入。
2006 年 7 月／全国の観光地を動画で紹介する国内最大規模の旅・ドライブ情報サイト「Movieum」オープン。
2006 年 12 月／（株）日立製作所が親会社となる。

07
2007 年 1 月／（株）ザナヴィ・インフォマティクスを 100%子会社とする。
2007 年 1 月／トヨタ車にカーオーディオを初めて納入（ダイハツ受注生産）
2007 年 4 月／国内向けポータブルナビゲーション「DrivTrax P5」を発売。
2007 年 4 月／バスロケ ASP サービスを開始。
2007 年 7 月／小型ドライブレコーダー「ドライブアイ」を発売。
2007 年 7 月／業務用車両向けカーナビゲーション「Solid Navi」（CQ-8000）を開発し、販売を開始。
2007 年 8 月／本社事務所をさいたま新都心へ移転し、名称を「本社事務所・技術センター」に変更。
2007 年 12 月／ DVD ワイド 7 インチ AV センターユニット「VRX935VD」と 6 ディスク DVD チェンジャー「VCZ625」（米国モデル）が NASA、国際宇宙ステーション（ISS:International Space Station）に採用される。

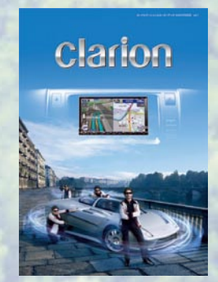
クラシックカー写真提供：モーターマガジン社

※ iPod は米国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。
※ Bluetooth® は米国 Bluetooth SIG, Inc. の登録商標です。

戦略的でグローバルなコミュニケーション活動が、人と企業と社会を結ぶ。

いくつもの国や地域、さまざまな文化やマーケットトレンド…。クラリオンの活動領域がグローバル化するに従って、お客様とのコミュニケーションの重要性はますます高まっています。企業姿勢の周知、ブランドの認知、製品情報の提供や新技術のPR、広告･宣伝などのプロモーション活動、ポータルサイトの拡充など、クラリオンでは世界各国のステークホルダーに向けて多岐にわたる活動を展開。「Clarion」ブランドをコアにしたグローバル戦略、地域性を重視したローカライズ戦略をバランスよく融合し、社会との良好な関係を築くためのコミュニケーション活動を積極的に進めています。

「SUPER GTシリーズ」に参戦する「KONDO RACING」とスポンサー契約



販促ツールデザイン
Clarionブランドを広く世界へ発信するブランドコミュニケーターとして、世界的アーティスト「Jamiroquaiの"Jay Kay(ジェイ・ケイ)"」&「ジウジアーロデザインコンセプトカー"VAD.HO(ヴァドー)"」を起用

VAD.HO
自動車と工業デザインにおける世界最高企業の1つイタリアのジウジアーロ社が制作した、Clarion H.M.I.コンセプトカー。

Jay Kay
世界的に有名なジャズ・ファンク・バンドJamiroquaiのヴォーカリスト。

2008年
「カーアンドサウンドシンスハイム」に出展
(ドイツ・シンスハイム)

オーストラリア各種イベント

2007年
「第40回東京モーターショー」に出展
(千葉県・幕張メッセ)

2007年
「IFA/Internationale Funkausstellung Berlin
(ベルリン国際民生用エレクトロニクス展)」に出展
(ドイツ・ベルリン)

2007年
「Tech Show(技術展示会)」を開催
(東京都・東京国際フォーラム)

2008年
「2008 Clarion 新商品発表会／新商品内覧会」を開催
(全国7都市)

2008年
「2008 International CES
(コンシューマーエレクトロニクスショー)」
に出展(アメリカ・ラスベガス)

ブランドの誇りと情熱を胸に、世界中で活躍するクラリオンスタッフ。

優れた企業とは、高い志をともにする人材の集合によって成り立つもの。豊富なグローバルネットワークを展開するクラリオンでは、世界各国に「Clarion」ブランドを代表する顔として活躍する社員達がいます。誰もが自らの仕事に誇りと責任を持ち、世界各国のお客様とよりよい関係を築くために日々努力しています。その一人ひとりの存在こそがクラリオンの価値をさらに高め、未来へ飛躍するための確かな礎となっています。

こんにちは！
メキシコのエレクトロニカ・クラリオンに
勤務するヘラルド・メドラーノです。
AIM&SMT課に所属しています。
1991年に入社して以来、
色々な経験を積みましたが、
最も大切に感じているのは、
ここに働く「我々の仲間」です。
お互いに励ましあい、共に譲り合って、
この会社を今日の姿にまで築き上げ、
会社はなお成長し続けています。
クラリオン・グループの中で仕事が出来る
ことは素晴らしいと実感しています。

クラリオンメキシコ
ヘラルド・メドラーノ

グローバル OEM営業部で
HONDA向け部品の納入と
新機種進捗フォローを
担当しています。
毎日が刺激に満ちています。
平穏な日々など物足りないと思っています
ので日々業務に邁進しています。

グローバル OEM営業部
松屋　徹

こんにちは。
CHEで EMS担当をしています、
山本　泉です。
EMSではお客様との
直のコミュニケーションとなりますので、
常に Clarionとして評価されることを
意識しながら仕事をすることの大切さを
感じています。

クラリオンハンガリー
山本　泉

「ヨーロッパのリテール製品」担当マネージャー
として、私の職責は多方面に及びます。
欧州全域の各市場別要望を収集して
どのような新製品が求められているかを
明らかにする「製品企画」から、
市場に新製品を投入する前にその市場の
競合状態をモニタリングする「マーケティング
活動」まで、果たすべき役割は多岐に渡ります。
私の担当する部署のゴールは、適切な製品を
適切なタイミングと適切な価格で投入して、
極めて競争の激しい欧州市場で
クラリオン・ブランドに対する認知度を
増大させることです！

クラリオンドイツ
ムラート・サカリ

当グループはクラリオン製品の
世界各地への輸出や海外生産工場からの
仲介貿易、併せて税関からの問合わせ
対応、海上保険付保、銀行買取業務等
について、クラリオン株式会社の
業務代行を行っています。
挑戦と創造でクラリオングループ発展の
一翼を担っています。

クラリオンアソシエ
羽賀 浩良

今年でCXEE入社6年目、現在は、生産管理、
受注・出荷管理を担当しています。
CXEEへは現地採用で入社、
初めは言葉も良く解らず、
毎日緊張の連続でした。
これからも、日本人と現地スタッフの
架け橋的存在として、
少しでもお役に立てればと思っています。

クラリオン中国(アモイ)
小田 早苗

ジル・バイイと申します。CEFの専務取締役として、
CEFが本社を構えるナンシーで、
バック・オフィスを統括しています。
ナンシーには、販売管理部、物流部、
保険・品質管理部、アフターセール・サービス部が
集約されており、業務の全てが
ヨーロッパ全域をカバーしています。
加えて間接部門の全て、すなわち経理、人事、
総務、経営管理の各部署が、ここナンシーに
終結しています。ナンシーには業務と管理が
勢揃いしていて、販売、マーケティング、
エンジニアリングを担っているパリの
フロント・オフィスと共に、車の両輪を形成しています。

クラリオンフランス
ジル・バイイ

私はクラリオン台湾にて総経理室の
便利係(秘書)として活動しています。
総経理の言葉を社内に伝えることと
毎月の販売計画の纏め。
それから総務(出張チケット、
宿泊手配など)を通じて経費削減に
努力する毎日です。
台湾旅行の際は遠慮なく、
コンタクトしてください。

クラリオン台湾
サリー・李

クラリオンで働くことは私にとって色々な
キャリアを経験するという意味で
とても報われるものです。
リテール・マーケティング・チームの一員として、
私は SEMA(自動車アフターマーケット) や
CES(コンシューマー・エレクトロニクス) など
主要な展示会全てについて
コーディネーションを担当しています。
私が仕事を通じて接する人々は皆格段に
才能が豊かで、ひとつひとつの
プロジェクトごとに、沢山の新しいアイデア、
気持ちの高まりを私に与えてくれます。
こうした職場環境を私は誇りに思っています。

クラリオンアメリカ
シェリー・アリアバディ

私は羅威俐(ら・いり)です。
ニックネームは「リリ」です。
上海事務所の人事、総務、財務等の
管理業務に従事しています。
入社して 4年になりました。
上海事務所の窓口です。
今でも事務所で責任を持って、
皆と一緒に働く事が出来ることが嬉しいです。
事務所の経費を節約する事が、
私の目標です。

クラリオン中国(上海)
羅　威俐

DDCE金型科、熊林会です。
金型設計を担当しています。
型構造・形状・精度・材質等により、
個々にメンテナンス標準を設定し、
実施しています。
金型・検具の内製も進めています。
金型を 7型内製して制作費を日本製より 41%
低減しました。また DCOE及び
CCA向けの検具の内製も進め、
日本製より制作費を 57%削減できました。

クラリオン中国(東莞)
熊　林会

スティーブン・ターンバルです。
オーストラリアで特機とマリーン製品を販売しています。
勤続20年を超え、現在、特機販売を
成功させるというゴールを目指しています。
新たに結成された「特機グローバル・チーム」の
一員となり、ゴール達成の励みとなっています。
私はまた、日本を除く市場に向けてドライブ・レコーダーを
開発するプロジェクトに参加しています。
このプロジェクトも「特機グローバル・チーム」と関わりがあり、
ドライブ・レコーダーの世界仕様を構築する
作業を通じて連絡を取り合っています。
オーストラリアとニュージーランドのOEM及び
大口ユーザーに対する販売活動も担当しています。
マリーン・オーディオ、コーチ(バス)用オーディオ、
カメラが取り扱い品目です。

クラリオンオーストラリア
スティーブン・ターンバル

クラリオンマレーシアでセールス&
マーケティングを担当している吉田です。
1991年入社以来、海外での
仕事が随分長くなりました。
アジア、中近東、アフリカ向け
ビジネスを、お客様視点に立って、
効率良く発展させることが
現在のタスクです。

クラリオンマレーシア
吉田 賢一郎

私の職場は宮城県の白石市にあり、
メカニズム部品のサブASSYや
KD部品の生産計画を担当しています。
以前は生産現場にいましたが、
生産計画の業務は経験が浅く、
まだまだ分からないことばかりで
奮闘の毎日です。白石は良い所です。
一度は来てみて下さい。
名産品の温麺(うーめん)も
おいしいですよ。

クラリオン製造プロテック
斎藤　寛

ザナヴィのデザイン部から、クラリオン
デザイン部に 4月から配属されました。
デザイン部市販グループの一員として、
オーディオのハードウェアデザインと
ソフトウェアデザインを担当しています。
まだまだ手探りの状態ですが、
発案から販売までの流れを考えつつ、
今後の商品の方向性に対して良い変化を
もたらすことが出来ればと思っています。

デザイン部
杉田 宗紀